

## ■別添 第5回都市基盤整備部会 顛末及び発言内容

(司会)齊藤管理課長

(挨拶)野間井建設水道部長、菅井部会長

(進行)菅井部会長

報告 (1)市長との懇談会について、菊池主事 説明

(2)財政見直しについて、橋本財政課長 説明

議事 (1)基本計画素案及び個別事業について

1. 防災対策の充実 東土木係長説明

2. 住宅の整備 中野建築係長 説明

3. 都市環境の整備 開発計画指導係長 説明

4. 道路の整備 東土木係長 説明

5. 雪を活かし雪に強いまちづくりの推進 森谷維持係長 説明

6. 上水道・簡易水道の整備 岩端工務課長 説明

7. 下水道・個別排水の整備 佐藤工務課主幹、植田下水処理場長 説明

部会長「全体を通して質問・ご意見はありませんか？」

委員「橋本財政課長より歳入歳出の件でお話をいただいたが、総額としての歳出と歳入のバランスはどのくらいのパーセンテージで遂行できるものなのか？」

野間井部長「お金の面については出さなければならないが、出していない。道路では3億から5億、住宅では2億から4億かかるが、これにとられると現実的に計画がなりたたない状況になる。道路で2億、3億使っても舗装率向上が1%に満たない状況になってくる。ただ、道路の整備計画上では5%アップを目標にもたなければならないことになっている。お金が先に行ってしまうと計画性がなくなってしまい、現実的なものになってしまう。本来はお金を出さなければ皆さんにお話できない部分だが、細かいお金は出していない状況です。

概数の数字は出さなければならないのはおっしゃる通りだと思う。住宅でも道路でも公園でもそうだが、財政課の説明通りに行くと計画が成り立たないということもご理解いただきたい。ただ、毎年のローリングの中で目標に近づける努力はしたい。」

石橋室長「財政課長より予算では約200億円と話されたが、資料の2枚目の表を参考にいただきたい。平成18年度から平成22年度の5年間の決算額推移となっており、平成22年度の決算額でいうと204億円の歳入となっている。その下の人件費以下が支出の部分になるが、普通建設事業費の決算額が23

億 2,400 万円、歳出の計が 201 億円となっている。歳入の計から歳出の計を引くと 3 億 2800 万円となり、財源が不足している分となる。3 枚目の積立金の状況を見て頂くと、通常は財政調整基金から足りない金額を引き出して財源にあてていく状況になっている。後期 5 カ年の事業は 3 カ年の事業展開をみて、お金がどの程度余っているのかによって精査していく。」

野間井部長「前回の部会でわかりやすい文言をというご指摘をいただき、部内で検討した。何点か直させていただいたが、広報的に表すと余計にわからなくなることも含め、そのまま文言が残っている部分が多々ある。難しく、直せるところだけ直させていただいたのでご理解いただきたい。」

委員 「前期では「推進します」「促進します」「取り組みます」となっているのが、後期では「努めます」という表現に変わっている。この距離感はどうようになっているのか。」後退したように感じる。

中野係長「表現は違うが、特に消極的になったという考えで変えたという意識ではない。国の情勢や震災も含めて不確かな時代になってきている。事業の展開としてやっていかなければならないという考えに基づいて記載している。」

委員 「前期から後期に向けて内容が変わる部分もあるが、基本的な考え方だけは変えてほしくない。ニュアンスが変わって別のものになっては困る。」

野間井部長「統一をさせていただいた方が良いと思う。「努めます」という表現が後退しているようにとらえられるかもしれない。どういう言葉をつかっていくか検討し統一させていただく。」

森谷係長「13 ページの「雪を活かし雪に強いまちづくりの推進」の中で、主な計画事業に「利雪・克雪事業」を挙げている。これについて 9 月 26 日に行われた総務部会で「利雪・親雪事業」を打ち出している中で、相反する「利雪・克雪事業」を入れていることは矛盾があるのではないかと言われた。利雪・克雪事業はもともと旧風連町の事業で、国道、道道に対する排雪の助成事業ということで行っていた。同じ助成事業の中の「道路除排雪事業」の中のひとくりとしてやっていく考え方の方がわかりやすいのではないかという意見をいただいた。もしそこに含めていいのであればひとつの事業として含めたいと考えている。皆さんにご判断いただきたいのでよろしくご審議お願いします。」

部会長 「利雪・克雪事業は風連の国道 40 号線の部分なのか？」

野間井部長「国道 40 号線と道道の駅前通りの部分。沿線の方々ที่組合を作り、自分達でも負担するが市からも助成を受け、年間 4~6 回程排雪を行っている。これについて審議会が設立されたので方向性についても審議していただいている。名寄の場合は労力で奉仕していただいております、風連の場合はお金でいただいている形になる。克雪という言葉は昔で言うと邪魔者扱いという感覚があるので除排雪の事業の一環とさせていただきたい。」

部会長 「説明があった通り利雪・克雪事業として載せないで、除排雪事業に含めるということよろしいか？」

委員 「問題ない」

部会長 「ご質問がないようでしたら、感想、ご意見をいただきたい。」

委員 「名寄市の公園施設は冬でも触って冷たくない公園施設という考えで木製のアスレチックが多い。今大学公園の遊具を入れ替えているが、どういう協議になったのか教えていただきたい。」

野間井部長「昔公園事業が盛んだったときは、温かい木のぬくもりをということで木製遊具を使っていた。平成になる前に防腐剤が変わり、5 年で遊具が腐食してしまうことによって、とげが刺さったり、ささくれたり、怪我人が多くなっていた。長持ちする素材を探そうということで、大学公園・名寄公園・健康の森などで冬でも温かい FRP の素材を使った遊具に少しずつ変えていっている。浅江島公園にある木製遊具もリニューアル

を考えており、遊具はFRP化していきたいと考えている。」

委員 「全体の流れの中で名寄市のまちがどうあるべきか。一つ一つの事業がまちづくりにどう関与してまち全体のプランニングがどうなるかという構想が考えられているのか。建築の関係で言うと例えば北斗団地の建て替えを現在行っているが、市民の住まいや動線など全て踏まえた上で進めていくのが根本だと思う。当然やっているとは思いますが、そこを一番期待している。やらなければならないからやっている様な事業にはなってほしくない。名寄全体のまちを作るという考え方で進めていただきたい。」

委員 「皆さんで集まって議論する姿はたくましいと思う。一般市民と一緒にまちをPRする機会に参加したり、他のまちに行った時、名寄だったらどうなのかなど自分のまちに置き換えて考えるなど、すぐにできるところからスタートし、始められればひとつひとつまちを活性化できることがあるのではないかと思う。」

委員 「前期計画と同様に 100%に近い進捗率で事業が行われることを期待している。」

委員 「国があんな状況の中でこのような計画を立てていかなければならない。大変ご苦労さまです。」

委員 「5 年後、10 年後、老後を迎えた時、まちの行く末がどうなっているのかが見えない。車がなくても生活できるまちづくりを目指していただきたい。事故がなく、住みやすい、病院や買い物に歩いて行けるようなコンパクトなまちづくりを目指してほしい。」

委員 「各高校の先生と面談したり、進学相談会をする機会がたくさんあり、オープンキャンパスでは保護者のための相談会を行っている。保護者の方は名寄と聞いてもわからなく、生活できるのか不安といった方が多い。来てみると落ち着いたまちですねという意見の方が何人もいる。見た感じ、空気に触れた感じからイメージをとらえていると思う。自分のまちがどんなイメージで積み上げていくのか考え、言葉にする作業が必要だと思う。」

(その他)

齊藤課長「ご指摘いただいた部分の訂正、変更箇所を含めて整理させていただきたい。7 項目の主要施策について部会としてご審議をいただき、確認いただいたので、10 月 7 日の総務部会でおはかりしたい。」

野間井部長「昨日の議会で駅横の複合交通センターの件について議論があったので報告させていただきたい。複合交通センター内の一部に空調設備を設ける計画をしている。今回、ガス協会からガスを検討していただけないかとお話があった。公共施設は灯油、電気などそれぞれのエネルギーでコスト計算をしながら採用している。ガスのコストを計算したところ、10 年間のコストと初期投資を含めると他のエネルギーより安い結果になった。設備は電気よりかかるため、1 億円の補正予算で議会に提案したところ、冷房設備が必要かどうかという議論になった。結果的に全館冷房という形で議決いただいた。公共施設は部分的に空調を入れている所もある。複合交通センターに空調設備を設けることで、他の公共施設はどうするかということもあり、今年度中に全ての公共施設を調査し、必要かどうかの意向調査も行い、優先順位を決めて設置していきたいと考えている。市立病院については早急な取り組みが必要なことから、院内あるいは理事者協議を進めながら早期に取り組む予定です。」